氏　　名	たたら　　たきこ **多田羅　多起子**
学位(専攻分野)	博　士（学術）
学位記番号	博甲第　478　号
学位授与の日付	平成 19 年 9 月 25 日
学位授与の要件	学位規則第 3 条第 3 項該当
研究科・専攻	工芸科学研究科　機能科学専攻
学位論文題目	**江戸時代前期の絵画史における狩野永納の位置づけ－和様化の問題を中心に－**
審査委員	(主査) 教授　並木誠士 教授　日向　進 教授　伊藤　徹 京都市立芸術大学教授　田島達也

論文内容の要旨

本論文は、これまで作家研究、作品研究の乏しかった狩野永納を江戸時代前期の絵画史のなかに位置づける試みであり、申請者は「和様化」という観点をとりあげて、この問題に取り組んでいる。

論文の構成は以下のようになっている。

序では、これまでの研究史を取りあげて、狩野永納を「和様化」という観点から考察する意義が示される。

全体はⅠ部Ⅱ部にわかれている。

Ⅰ部では、中国で描かれていた主題を取り込み、それを描く際に絵師が独自の表現を加えてゆくという主題面での「和様化」を論じている。

Ⅰ部の第 1 章では、〈蘭亭曲水図〉を扱い、中国における表現および父狩野山雪、同時代の江戸狩野の作品との比較を通して永納の特性を明らかにしている。

Ⅰ部の第 2 章、第 3 章では、〈耕作・養蚕図〉を扱う。ここでは、これまで詳細に論じられることのなかった作品を含めた諸作例を詳細に比較検討している。この二章により、耕作図という 15 世紀に中国から伝来した主題が、どのように江戸時代絵画史のなかに根づいたかという様相が明確に示されている。

Ⅱ部では、従来狩野派が積極的には取りあげてこなかったやまと絵主題を永納がどのように作品化したかが分析される。

Ⅱ部の第 1 章では、和歌を主題とした〈十二ヶ月歌意図屏風〉をとりあげる。ここでは、これまで和歌主題としてはあまり注目されてこなかった畠山匠作亭詩歌を綿密に分析して、作品の特徴を抽出するとともに、和歌筆者についても考察し、永納の交流関係を明らかにしている。第 2 章では、未紹介作品である醍醐寺三宝院の棚障子に描かれた〈十二ヶ月歌意図〉を紹介しつつ、そこに永納の特徴的な作風を検出し、そのうえで作画環境を明らかにしている。

以上のように、本論文は、綿密な作品分析を通して主題、様式面から狩野永納の特質を明らかにし、なおかつ、和歌主題を通して浮かび上がる彼の交流関係、作画環境を解明し、それらの作業により、「和様化」という観点から江戸時代絵画史における狩野永納の位置づけを試みたもので

ある。

論文審査の結果の要旨

本論文は、これまで本格的に研究されていなかった京狩野の絵師狩野永納について、とくに「和様化」という問題に焦点を当てて論じた論文である。

江戸時代前期絵画史における「和様化」は、これまで狩野探幽を中心とする江戸狩野に関して語られることが多かった。申請者は、主題選択、表現様式、交流関係などさまざまな観点から狩野永納の事蹟を分析することにより、江戸狩野とは異なる狩野永納の「和様化」のあり方を示している。「和様化」とはもとより重層的な概念であるため、その実態を解明するには、より詳細な分析が求められるとはいえ、本論文は、綿密な作品分析と史料解釈により、江戸時代前期における「和様化」のひとつの新しい姿を十分に描き出している。また、江戸狩野と対比的に語られる京狩野の位置および京狩野における永納の位置についても、従来の概念的な枠組みを見直して新たな見解を示し得ている。

未紹介の作品や史料の分析および位置づけを通して新知見も提示されており、学会に寄与する要素も多である。

なお、本論文の内容の一部は、申請者による下記の学術学会誌の査読論文 2 編により公表されている。

①多田羅多起子「狩野永納筆〈十二ヶ月歌意図屏風〉について－画域の拡大による新規需要への対応－」『美学』（美学会学会誌）225 号（平成 18 年）

②多田羅多起子「狩野永納筆〈耕作・養蚕図屏風〉について」『デザイン理論』（意匠学会学会誌）49 号（平成 18 年）